



市民より見たる道路

志村源太郎

我國の道路を見るたびに、自分は日本の家屋の構造、就中疊こいふものが、道路の改良發達に尠からぬ妨害をして居るものであることを常に感ずるのである。それは家屋の室内が疊敷であるが爲に、道路より來つて履物を脱いで室に上る、そこに家の外と内との區劃が明かに立つて居るから、家の内

は實に能く掃除が行届いて、大概の家庭の内は洵に清潔である。何れの國の家庭に比べても、平均して日本の家庭の内部は能く整つて居ると思はれるのであるが、之に反して家の外の道路さいふものは實に掃除も不行届である。さうして市街地でも雨天の時なきは泥濘膝を没する状態になり、又晴天になれば埃が舞上つて面を背けなければならぬ状態である。世界中の大都會で斯様な状態に道路のある國は恐らくないであらう。蓋し我國に觀光に來る外國人でも、明かにそれには言はぬが、内心では此の道路の状態に不愉快を感じ、其の亂雜に驚いて居るだらうと自分は想像するのである。

二

管に道路の構造性質が既に道路は名の附けられない、唯地面其の儘を交通に當て、居るに過ぎないやうな状態であるのみならず、又其の道路の取締監督さいふものが甚だ不行届である。殆ど道路が物置場になつて居る、車が置いてある、品物が積んである、狭い道路の如きはそれが爲に交通に困難を感じるほごである。是は管に個人が自分の家の前を物置場同様にして居るやうに見えるのみならず、其の道路の監督取締をなすべきところの市であるさか區であるさかいは公衙に於ても、亦之に劣らぬ状態で勝手に路面を使用して居る。一時的に路面を使用するさいふことは、幅員の廣い道路であれば差支ないことであり、又必要なことであらう、併ながら道路の一部分を砂利置場にしたたり、材料置場に使つて、而も數年間殆ど其の儘路面を使用して居ることを自分は屢々目撃するのである。

三

監督取締の任にあるべきものが既に然りであるから、市民も我劣らじと勝手に路面を使用して居るのではあるまいか。茲に於てか狭い道路は一層狭くなつてしまひ、通行には困難を感じ事故は頻發する。市役所の吏員も之を見て見ぬ振をし警察官も敢て之を取締らない。何人が抑々之を取締るべきか、それすら明かならぬやうな状態である。

四

東京市及び横濱市は成程今震災の復興中であるから、區劃整理の完了するまでは已むを得ない現象であるにしても、震災に基く火災に罹らなかつた例へば山の手方面でも其の道路の状態は同様である。相當廣い道路に於ても其の通りであるから、況や横丁さか小路さかいふものに至つては實に亂雜極まつて居る。又日本橋京橋方面の大通りを歩いて見ても清潔法を行ふ日なごには、路面一パイに家財道具が取擱げられてあつて、殆ど歩く道が無い、是なごも一體道路さいふものを市民が如何に考へて居るのであるか、其の觀念を自分は聊か疑はざるを得ない。

如何に自分の家の内を清潔にすれば宜いと言つても、少しは公共的觀念さいふものを持たなければならぬ。此の如きは甚だ小事のやうではあるけれども、外國人に對し、將又世界に對して、我が同胞の甚だ公共的觀念に乏しい事を暴露して居るものではなからうか。又公共的の監督取締の不行届

を現實に示して居るものではないかと思はれるので、自分は市民の一人として洵に痛嘆に堪へない者である。一日も早く關係當局の努力をお互ひ市民の注意に依つて斯の如き醜態が外部に現れないやうにしたいものだを考へる。

五

又道路の修理修繕の方法を見ても、實に長き時日を要するやうである。是は或は請負師に渡す關係かも知れぬが、徒に店開きばかり大きくして、廣い路面を掘返してしまつて、而も實際の修理工事は少しも進行しない、何十日或は何箇月に亘つて僅かの面積の修築をやつて居るに過ぎない。其の間道行く人の不便、沿線に住む商人の營業上の妨害等は、何人も之を眼中に置かない。是等の如きも要するに我が國民全體が道路といふことに就いて、餘りに不注意であり、無關心である。モウ一つ遡つて言へば公共的事業に就いての注意が缺乏して居り、公共道德の修養が出来て居らぬ、自己の便宜を計つて公共の所有物たる物を自分の勝手に使用して憚らず、又監督者も之を取締る觀念が無いと言ふことを如實に暴露して居るものである。

斯の如き現象は外國人でも一目見れば直に察せられる事實であるから、斯様な醜い事實を速に絶滅するやうでなければ國家の文明さか人間の教育といふもの、効果は現れて來ないと言はなければならぬ。

六

外國の文化を自分の見聞して居る所に據れば、すべて先づ公共的の事柄を設備し、外面周圍を能く整へて、而して後に個人々の内部の文化、道德さいふものに之を反映せしめて行く、斯ういふ状態であるやうに自分は觀て居るのである。然るに我國に於ては之に反して、個人的の道德或は一家内の道義なきは、古來の孔孟の教さかいふものに依つて、確に世界の人々が知るより以上に整つて居るのであるが、一步外に踏出した外面の文化、公共的の道義さいふものが少しも整つて居らない。茲に於てか我國は國際的にも非常な不利益な立場に立たなければならぬ、列國さ比べて日本の障立の後れて居り、文明國としての資格の整はぬさいふことを、列國の前に暴露して居る譯である。外國人はお世辭を言ふことは上手であるから、口先ではうまい事を言ふけれども、腹の中では恐らく輕蔑の眼を以て視て居るであらふさ思ふ。其の結果は恐らくは日本人の個人道德、家庭道德までも其の眼で以て見るに至るのではないか、是は實に日本人として不利益なこゝであるから、一日も早く改めたいさ考へるのである。

七

話が道路問題から岐路に外れたやうであるが、要するに道路の問題は公共的道德さいふか、社會的觀念の最も好き現れであるから、此の道路を良くし、道路を有意義に使用するさいふこゝが、即ち國民

の公共觀念を養ひ、社會道德を整へて行く第一歩である。自分は信じて居るのである。

八

近時自動車の發達に依つて我が國民も漸く道路の觀念に覺めて先づ道路を擴張し其の路面も舗装し随つて埃も立たず混雜も來さないやうにする。こゝの必要を認めて着々として其の方向に向つて來たやうであるから、是は結構なことだと思ふ。從來我國の當局は鐵道のみに非常に熱心であつた。又地方人も自分の地元を鐵道を引張らなければならぬ。こゝの觀念ばかりを持つて居つたけれども、能く考へると鐵道は莫大な資本を固定してしまふものである。さうして若し其の利用程度が少ければ洵に算盤に合はぬものである。然るに自動車になれば、其の道路さへ相當の程度に整備して置けば、資本を固定すること少く、而も需要に應じて伸縮が出来る。鐵道のやうに始終澤山の車を用意して置く必要はない。春の頃人が多く出る所では其の時季に多くの自動車を運轉すれば、宜しい。夏季に登山の客が多い。こゝの地方はそこに車を廻せば宜しい。斯の如く車體の利用が伸縮自在であつて、而も各家庭の軒先まで人なり荷物なりを迅速に運び得るのである。

それであるから今後自動車の發達。こゝのこゝは、唯人間の交通が迅速に行はれるのみならず、貨物の運搬の上から考へても非常に望ましい事である。随つて道路の改良修築といふことは寧ろ今日では鐵道の新設改良よりは一層の急務である。こゝを考へる、而して是は當に都會地のみならず、我國の山嶽地帯、寒村僻地までも此の自動車の交通を及ぼし得べきものであるから、遍く國民一般に其の利

益が及ぶのである。此の點から觀ても道路の改良は一日も忽せにすべからざるものゝ考へる。

九

勿論道路の改良には國家の資本なり、公共團體の資本なりを相當に要する譯であるが、吾々が住民の立場から之を觀るに、いふに道路を一旦新に開くか、或は現在の幅員を擴張するに、いふには勿論相當の金が要るが、さて斯くして出來た道路を維持して行くに、いふに就いて、今日は少しく物足らぬ點を感ずるのである。モウ少し其の沿線の住民が道路の維持に、いふに注意して、附近の住民が共同して道路を保護して行くことに注意する必要があるであらうと思ふ。道路の破損にしても、小破の時に附近の住民が少しの注意を惜まなかつたならば、直に恢復の出來得るものを、其の儘に看過する爲に、遂に非常な大破損となつて、多大の修繕費を投じなければならぬ。いふことは、市街地たる山村たるを問はず、常に吾々の目撃する所である。

是は附近住民に公共觀念が乏しい結果であるか、と言へば、必しもさうではない、自分をして言はしむれば、寧ろ其の組織が出來て居らぬのである。我國には昔から五人組、十人組、十人組、十人組、十人組があつて、近隣の者が相寄つて、其の附近の安寧秩序幸福を維持するに、いふ制度があつたのである。明治維新の際に、是等の制度を全然廢棄せずして、之を本として、行政組織を立て、あつたならば、道路の行政も、衛生の行政も、教育の制度も、今日モット、良く行はれたのではないか、自分は常に感じて居る。然るに不幸にして、從來の美風を破壊して、すべてが西洋の眞似をやつたものであるから、外面

は非常に組織が整うて居るやうであつて、而も實際に就いて見るに甚だ効果が擧つて居らぬ。是は寧ろ我が國民に公共觀念が無いといふよりは、其の公共心を發揮せしむべき組織を破壊してしまつた結果である。自分は言ひたいのである。

今道路の問題に就いて考へても、或は町内組合といふか、或は五人組のやうな制度をモウ少し組織的にして、其の沿道の住民が適當の長さを受持つて、さうして絶えず道路の状態に注意を怠らず、若しも破損の箇所があつたならば、之を管理者に報告して、小破の間に直に修理してしまふといふことになれば、路面は常に清潔となり、道路の大破損は無くして、交通上にも多大の便宜を得ることが出来る。又個人が勝手に道路を使用して、交通に妨害を與へて居るやうな場合も、是等の仲間の者が親切に注意を與へたならば、警察官が權柄づくに叱り飛ばすよりは、役場に喚出して説諭するよりは、遙かに好結果を呈するであらうと思ふ。

10

要するに道路の問題は唯路面をいぢくる仕事さうばかり、自分は考へたくないのである。モウ一歩進んで道路を改良するに同時に、國民の頭腦を整理し、路面を修築するに同時に、國民の頭腦を啓發して行くべきではないかと思ふのである。(完)